

点検・評価報告書

学校法人 加計学園

岡山理科大学

2006

目次

序章

本章

第1章 大学の理念と目的

- 1.1 建学の理念と使命 1- 1
- 1.2 建学の理念に基づく自己点検・評価 1- 2

第2章 教育研究組織

- 目標 2- 1

第3章 教育内容と方法

- 目標 3- 1

3.1 理学部

- 3.1.1 教育課程等 3- 2
- 3.1.2 教育方法等 3-15
- 3.1.3 国内外における教育・研究交流 3-23

3.2 工学部

- 3.2.1 教育課程等 3-25
- 3.2.2 教育方法等 3-35
- 3.2.3 国内外における教育・研究交流 3-39

3.3 総合情報学部

- 3.3.1 教育課程等 3-41
- 3.3.2 教育方法等 3-49
- 3.3.3 国内外における教育・研究交流 3-52

3.4 理学研究科

- 3.4.1 教育課程等 3-53
- 3.4.2 教育方法等 3-57
- 3.4.3 国内外における教育・研究交流 3-58
- 3.4.4 学位授与・課程修了の認定 3-59

3.5 工学研究科

- 3.5.1 教育課程等 3-61
- 3.5.2 教育方法等 3-64
- 3.5.3 国内外における教育・研究交流 3-66
- 3.5.4 学位授与・課程修了の認定 3-66

3.6 総合情報研究科

- 3.6.1 教育課程等 3-68

3.6.2	教育方法等	3-72
3.6.3	国内外における教育・研究交流	3-74
3.6.4	学位授与・課程修了の認定	3-74

第4章 学生の受け入れ

	目標	4-1
4.1	学部における学生の受け入れ	
4.1.1	学生募集方法，入学者選抜方法	4-2
4.1.2	入学者受け入れ方針等	4-9
4.1.3	入学者選抜の仕組み	4-11
4.1.4	入学者選抜方法の検証	4-13
4.1.5	定員管理	4-14
4.1.6	定員充足率の確認の上に立った組織改組， 定員変更の可能性を検証する仕組みの導入状況	4-16
4.1.7	編入学者，退学者	4-17
4.2	大学院における学生の受け入れ	
4.2.1	学生募集方法，入学者選抜方法	4-19
4.2.2	学内推薦制度	4-23
4.2.3	門戸開放	4-24
4.2.4	飛び入学	4-25
4.2.5	社会人の受け入れ	4-27
4.2.6	定員管理	4-28

第5章 教員組織

	目標	5-1
5.1	大学における教育研究のための人的体制	5-2
5.2	学部における教育研究のための人的体制	
5.2.1	理学部	5-8
5.2.2	工学部	5-10
5.2.3	総合情報学部	5-14
5.3	大学院における教育研究のための人的体制	5-18

第6章 研究活動と研究環境

	目標	6-1
6.1	研究活動	
6.1.1	学部・大学院修士課程	6-1
6.1.2	大学院博士課程（後期課程）	6-3

6.1.3	研究所その他	6-4
6.2	研究環境	
6.2.1	個人研究費，研究旅費	6-5
6.2.2	教員個室等の教員研究室の整備状況	6-6
6.2.3	教員の研究時間を確保させる方策	6-6
6.2.4	共同研究費の制度化の状況とその運用	6-6
第7章	施設と設備	
	目標	7-1
7.1	施設・設備等の整備	
7.1.1	大学・学部，大学院研究科等の施設・設備	7-1
7.1.2	教育の用に供する情報処理機器などの配備状況	7-2
7.2	キャンパス・アメニティ等	
7.2.1	キャンパス・アメニティ形成のための取組状況	7-3
7.2.2	学生のための「生活の場」の整備状況	7-3
7.2.3	大学周辺の「環境」への配慮の状況	7-5
7.3	施設・設備利用上の配慮	7-6
7.4	施設・設備等の維持・管理体制	7-6
第8章	図書館および図書・電子媒体等	
	目標	8-1
8.1	図書，図書館の整備	
8.1.1	図書，学術雑誌，視聴覚資料，その他教育研究上 必要な資料の体系的整備とその量的整備	8-1
8.1.2	図書館施設の規模，機器・備品の整備	8-3
8.1.3	学生閲覧室の座席数，開館時間，図書館ネットワーク の整備等，図書館利用者に対する利用上の配慮	8-5
8.1.4	図書館の地域への開放の状況	8-7
8.2	学術情報へのアクセス状況	8-8
第9章	社会貢献	
	目標	9-1
9.1	社会への貢献	
9.1.1	社会との文化交流を目的とした教育システム	9-1
9.1.2	高等学校教育への貢献	9-1
9.1.3	情報処理センターの公開講座	9-3
9.1.4	地方自治体等の政策形成への寄与	9-4

9.2 産学官連携による社会貢献	9-4
------------------	-----

第10章 学生生活

目標	10-1
10.1 学生への経済的支援	
10.1.1 奨学金	10-1
10.1.2 その他の経済的支援	10-4
10.2 生活相談等	
10.2.1 学生の心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮	10-7
10.2.2 ハラスメント防止のための措置	10-9
10.2.3 生活相談担当部署の活動上の有効性	10-9
10.3 就職指導	
10.3.1 学生の進路選択に関わる指導	10-10
10.3.2 就職担当部署の活動	10-15
10.4 課外活動	10-17

第11章 管理・運営

目標	11-1
11.1 教授会	
11.1.1 教授会の役割	11-1
11.1.2 学部教授会と学部長の関係・学部教授会と大学協議会の関係	11-2
11.2 学長・学部長の権限と選任手続	
11.2.1 学長・学部長の選任手続	11-3
11.2.2 学長・学部長の権限	11-3
11.3 大学の意思決定プロセス	11-4
11.4 「大学協議会」などの全学的審議機関	11-4
11.5 教学組織と学校法人理事会との関係	11-5
11.6 大学院の管理運営	11-6

第12章 財務

目標	12-1
12.1 財政基盤（もしくは配分予算）の確立状況	12-1
12.2 総合将来計画に対する中・長期的な財政計画	12-2
12.3 文部科学省科学研究費，外部資金，資産運用益等の受入状況	12-2
12.4 予算配分と執行のプロセス	12-3
12.5 アカウンタビリティを履行するシステムの導入状況	
12.5.1 学校法人の財産の状況を監査すること	12-3
12.5.2 理事の業務執行の状況を監査すること	12-4
12.6 監査システム	12-4

12.7	消費収支計算書関係比率及び貸借対照表関係比率	12-5
------	------------------------	------

第13章 事務組織

	目標	13-1
13.1	事務組織と教学組織との関係	
13.1.1	事務組織と教学組織との間の連携協力	13-2
13.1.2	大学運営における事務組織と教学組織の関係	13-3
13.2	事務組織の役割	
13.2.1	教学に関わる企画・立案・補佐機能	13-4
13.2.2	学内の予算（案）編成での役割	13-4
13.2.3	学内の意思決定・伝達システムの中での役割とその活動	13-5
13.2.4	国際交流，入試，就職等の専門業務への関与の状況	13-6
13.2.5	大学運営を経営面から支えるような事務局機能	13-7
13.3	事務組織の機能強化のための取り組み	13-8
13.4	大学院の事務組織	13-9

第14章 自己点検・評価

	目標	14-1
14.1	自己点検・評価と改善・改革システム	14-1
14.2	大学に対する勧告等への対応	14-3

第15章 情報公開・説明責任

	目標	15-1
15.1	財政公開	15-1
15.2	自己点検・評価	15-1

終章

岡山理科大学	評価委員会名簿	
岡山理科大学	点検評価報告書	編集委員会名簿

序章

大学の質の保証は、大学が大きな自由を獲得するとともに、高等教育に大きな影響力をもつ社会内存在であることからして、当然のことと考えられる。したがって、2002年（平成14年）の学校教育法改正によって、2004年4月1日から大学の認証を受けた評価機構から受診が義務付けられた。岡山理科大学においては、1971年に大学基準協会の加盟判定審査によって正会員資格を受け、続いて1996年に同協会の相互評価を受け、大学基準に適合するという判定を得ている。その間、およそ3年間隔で、自己点検・評価を実施し、岡山理科大学教育研究白書並びに同別冊として総括・公表して来た。

このたび、大学基準協会が文部科学省より認証評価機関として正式認証されたのを機に、岡山理科大学としては、相互評価の有効期限という形式的理由と、冒頭趣旨に基づく実質的な自己点検・評価の必要性から、上述のいわゆる第三者評価受診義務を果たすべく、ここに評価の基本となる報告書を提出するものである。これは、2004年4月から現在に至る間に、岡山理科大学評価委員会の統括のもとに、各部局の全面的な協力のもとに作成されたものである。形式を排して、本学の明日につながる実質的に有益な点検・評価並びに改善提言が記載されている。

大学の果たすべき社会的役割は、教育、研究、社会貢献の3つであることは公認のところである。一方、岡山理科大学の建学の理念は、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」である。これは、現在、加計学園名誉理事長にあつて創立者である「加計 勉」が、過ぐる大戦における郷里広島市の惨状を目の当たりにして、戦後日本の教育立国家を遠望した志による。

従って、まず、教育に関しては、現在、「学生第一主義の教育」を目標に掲げ、学生個々人の能力に合った教育を施すために、全ての科目に渡って可能な限り少人数教育を励行すること、英語教育における習熟度別クラス編成、学生による授業評価とその公表、基礎学力の補習のためのセンターの開設、FD活動、卒業研究への注力、JABEEカリキュラムなど、不断の教育システム改善を行っている。教室、実験室などの更なる増設が望まれる。次に研究については、早くからの大学院の設置拡充策、学際領域への指向、相当の額の研究費などによって相応の充実・成果をあげてきた。今後、社会に貢献できる人材の養成のためにも、また、現代の競争環境下に勝ち抜く研究の視点からも、現実の社会において高い評価を受ける「きらりと光る研究」を目指して、本学で実施される研究の課題、費用対効果、質などについて、全学的に真摯な検討が必要である。最後に、「積極的な社会貢献」を標榜して地域産業に役立つことを目指して、学外連携室を中心にして、対外公開イベント（OUSフォーラムなど）の開催、外部組織（岡山TLOなど）やイベントへの意識的・積極的参加、ベンチャー企業の設立など、活発な活動を展開してきており、成果も確実に挙がっている。

以上、本学は、今後も「役立つ人材をめざしての学生の能力の開花」を目指して、絶えざる自己点検・評価を続けてゆく所存である。

第1章 大学の理念と目的

1.1 建学の理念と使命

岡山理科大学は、創立者「加計 勉」により「自由にしてアカデミックな学園」を目指して1964年（昭和39年）に創設された。その建学の理念は、「ひとりひとりの若者が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」である。この間、わが国は高度経済成長から情報化社会の到来、さらに今日の少子高齢化社会へと大きく変化してきたが、加計勉は各時代の要請に応じた教育・研究体制を構築しつつ、一貫してこの建学の理念に沿った学園運営を行ってきた。

この建学の精神の目指すところは、様々な希望と夢を抱いて本学の門をたたいた若者個々人の個性を尊重し、それぞれのもつ能力の発見を支援し、産業社会のニーズに応えられる人材の育成に努めることである。すなわち、「理工学に関する学術の理論および応用を深く研究教授し、人格を陶冶すること」と本学学則に明記された設置目的の実現である。この建学の理念は、現在、岡山理科大学ホームページ <http://www.ous.ac.jp/> を通じて広く社会へ周知されるとともに、学部入学生には学生便覧を通じて各学部・各学士課程の教育目標と併せて、また大学院入学生にあっては大学院要覧を通じて各研究科・各修士課程の教育目標と併せて周知徹底されている。

本学は、創立以来、学問・知識の修得に必要な施策の具体化に努める一方、学生の豊かな人間性の育成にも多大な配慮を払ってきた。特に、創立者は教育を通して学生との人間的交流の重要性を、身をもって実践してきたが、その伝統は今日も本学に生きている。私学の場合には、卒業生の満足度が学園発展の重要なキーポイントとなることを忘れてはならない。社会が選ぶ人材は、学業が優れていても利己心が強く人間性に乏しい学生よりも、各自の任務を自覚し、積極的に取り組む熱意を有し、努力を続けられる人間性豊かな学生であろう。まさにこのような人材の育成を本学の使命としている。

本学は理学部を母体として発展してきたが、理学部が目指す目標は、自然科学の諸分野に対し、応用に力点を置いて教育・研究することである。理科の素養を身につけた有為な人材を産業社会に輩出すべく工夫を重ね、学際領域の教育に取り組む応用数学、化学、応用物理、基礎理学、生命化学、臨床生命科学の6学科を擁し、理学の主要分野をカバーできる段階に至った。

一時、理学部に応用化学、機械理学、電子理学の3学科を設置したが、科学技術の基礎を身に付けた、優れた技術者の養成を目指すためには工学部を設置すべきであるとの判断から、これらの学科を母体として工学部を設置し、産業社会人として不可欠な倫理観に基づいて活躍できる専門家の養成を行うようになった。社会的要請に従い、情報工学、知能機械工学の2学科を増設し、工学の主要な分野に携われる技術者を輩出している。

20世紀末には情報技術が現代文明において主要な役割を果たすようになり、科学技術のみならず人文・社会科学との関連性が急速に高まってきた。高度情報化社会に適応できる情報科学の素養を身につけた社会人を養成するために、自然・環境・情報に関する幅広い教育を行う総合情報学部を設置し、情報科学、コンピュータ・シミュレーション、生物地球システム、社会情報の4学科を設け、理工の間を結ぶ学部として特色を持たせている。